

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校 定時制課程 校長名：坂 上 裕 昭

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
・一人一人の生徒が安心して学ぶことのできる、学校と地域が一体となった、「地域とともにある学校」づくりをめざす。
・「志を高く掲げ、将来にわたって豊かな人間関係を築きながら社会を生き抜く力」、「困難に直面しても、あきらめることなく自らの未来を切り拓く力」、「人々との関わりの中で、互いに鍛え合い、支え合い、学び合い社会に貢献する力」を身につけた生徒を育成する。

学校評価の公表方法
学校ホームページにて公表する

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月7日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	多様性を認める教育の推進	B	誰一人取り残さないわかる授業の推進と定期考査廃止に向けた授業・評価の研究	公開授業の実施による他者評価 学校評価の実施における生徒による評価	B	定期考査廃止に向けた校内研修の実施や教科による授業・評価の改善に取り組んだ。授業評価の結果も良好である	定期考査廃止向けて、一部科目で先行実施し研究を進めた。その成果を踏まえ、次年度は学校全体の取組として授業・評価の改善に努め、誰一人取り残さない学びの実現を目指す。 地域のボランティア活動や認知症カフェの定期開催、支援学校生徒との共同学習をとおして、地域貢献や多様性を認める土壌が定着しつつある。今後も全校的な教育効果の波及を目指す。
			地域のボランティア活動への参加	自ら進んで参加を希望する生徒の増加	A	生徒会や地域連携部の生徒を中心に地域イベントや公民館活動などに意欲的に参加した	
			キャリア教育や学校行事を通じた生徒の社会性の育成	趣旨を踏まえた教育活動の実施と生徒の変容状況	A	系統的なキャリア教育や学校行事、ボランティア活動等の実施や参加により、生徒の社会的・人間的成長が見られた	
2	特別支援教育機能の充実	B	個々の生徒の適切なアセスメントと支援体制の構築	適切なケース会議の実施と支援計画の作成状況	B	ケース会議の適宜開催やSSWを活用した支援、関係機関との連携等により、生徒・保護者への個別の支援を行った。	専門家や関係機関等と連携し多面的に支援を行うことができた。支援ニーズが多様であるため、今後も校内体制を強化し、組織的に対応していく。 支援内容がニーズにマッチングしているか、生徒の成長に寄与しているかなどの検証が必要。
			生徒一人一人に寄り添った、きめ細かな指導とサポート	基礎基本を重視した学習と個々に応じた学習の支援状況	B	支援員によるサポートやルビ対応など、一人一人のニーズに応じた対応を行った。	
3	外部への発信の強化	B	学校ホームページの充実	コンテンツの充実と適切な更新状況	C	学校紹介動画等コンテンツは充実しているが、適時効果的な更新・発信ができなかった	説明会で学校紹介動画を活用するなど、情報発信に一定の成果があった 今後も地域の状況を考慮し、適切な媒体を選択しながら発信に努める
			地域コミュニティを活用した教育活動の発信	適切な時期・方法による発信状況	B	伊都中央カフェの開催を地域公民館の広報紙を通じて発信して集客を図った。	
4	校務のDX化による働き方改革の推進	B	ICTを活用した会議や事務作業等の効率化	学校評価における教職員の自己評価	B	学校評価、生徒欠席連絡、打ち合わせや職員会議資料等のDX化。	一定の成果が見られる。引き続き適切なDX化を推進していく

学校関係者評価（2月7日実施）
評価
・地域との連携を大切にし、他校種との連携や地域活動への参加など、とてもよく活動できている。 ・伊都中央高校との共同学習は、両校の生徒が同じ課題に取り組む県内初の試み。生徒に実りのある形で継続的な取組にしてほしい。 ・生徒が個性を出せるのは、伊都中央では人権が守られているからだと思う。 ・福祉科の取組も長いものとなってきた。卒業生は就業先でも経験を積み、中堅職員になっている。活躍する卒業生の姿を見た在校生がそれを目指するという好循環が生まれつつある。また、専門学校との連携や認知症カフェの実現などは高く評価する。
課題
・定時制の定期考査廃止の取組は、話が一人歩きして誤解がないように進めてもらいたい。 ・定時制と通信制を併せ持った学校なので、定通併修をはじめより柔軟なシステムの構築を検討してみてははどうか。 ・地域との連携が進んできている。学校ホームページや地域の回覧板などを活用し、地域に対する学校情報の発信に努めて欲しい。

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校(通信制課程) 校長名： 坂上 裕昭

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
地域と連携し、自信を育みながら卒業まで導き、社会的職業的自立を支援する学校
多様な考え方や価値観を理解し、自他を価値ある存在として認め、地域社会で活躍できる生徒

学校評価の公表方法	現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
		B	概ね達成している。	(60%以上)
		C	あまり十分でない。	(40%以上)
		D	不十分である。	(40%未満)
		・学校ホームページにて公表する。		

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 2月7日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	多様性を認める教育の推進	C	スクーリング等での面談指導を通して基礎学力の定着及び向上	活動率、受講登録・単位修得生徒数、卒業生徒数	A	卒業生徒数が過去最多となった。活動率も 70%を超えている。	活動率をあげるために学習進捗状況について DX 化推進とそのオリエンテーションを実施し利用促進を図る。クラブ活動への通信制らしい積極的な参加とクラブ活動の充実を図る。協力企業の取組の推進とその関係の深化を図る。
			特別活動や生徒会活動の充実と生徒参加の呼びかけ	各活動の工夫と通信制行事等への参加状況	B	参加者数は増加したが、一部には課題が残る。	
			就労とクラブ活動による地域貢献	就労の状況とクラブ活動の取組状況	C	クラブ活動は地域への貢献まで至らなかった。	
			地元企業の協力企業化	他と連携し企業への働きかけ	C	新規の協力企業は生まれなかった。	
2	特別支援教育の充実	B	中学校や高校との情報の共有による生徒理解、丁寧な個別対応	月 1 回の生徒情報共有会の実施と生徒・保護者による評価	A	個人懇談前に生徒情報共有会議や研修会を持つことで生徒理解や支援に活かすことができた。	学校間の情報共有や、教職員・SSW・SC 間の情報共有は、十分に行えているが、地域の教育福祉関係の社会資本や組織の利用連携をなお一層発展していくことが必要である。またそのことに連携して、生徒の進路保証や勤労観の育成を目的に、なお一層のサポート企業の拡大発展と活用が必要である他と連携してキャリア教育、特に新規中卒生徒に係る取組の工夫充実を図る。
			SSW と SC の福祉と心理の視点を活かした安心・安全な環境整備	問題行動の未然防止や早期発見	B	日頃に生徒対話や啓発活動に重きを置き、信頼関係や相談のしやすい環境を、学校として創り出す。	
			勤労観・職業観及び将来の社会的自立の育成	地域の企業から講演の実施や学習を通して生徒に寄り添う進路支援	A	地域企業や卒業生の講演を通じて自立に繋がる進路支援ができた。	
			不活動生徒の把握	不活動生徒への年 2 回の組織的なアプローチ	A	2 回に限らず、日常的に連絡をして登録や登校に繋げた。	
3	外部への発信の強化	B	学校ホームページの充実	コンテンツの充実と適切な更新状況	A	行事や LHR などがあったときはその都度アップしている。	学校ホームページのより一層充実に努める。
			学校説明会、伊都通報、地域教育コミュニティ等での広報	適切な実施状況	B	PV を利用したり、授業参観を実施したりするなど適宜広報を行った。	
4	校務の DX 化による働き方改革の推進	B	会議や事務作業の効率化	学校評価による教職員の自己評価	B	教職員間の情報共有や連絡、教職員への調査・アンケート等の DX 化を推進している。	今後に必要な箇所に適切な方法で進めていきたい。

学校関係者評価（2月7日実施）

評価

・本校の生徒は充実した学校生活を送っている。

・本校には他校にない特色がある。

以上について高い評価をいただいた。

意見

・外部への発信への強化について、生徒自らがやりたいことをもっと発信してはどうか。

・地域と連携しながらキャリア教育を進め、将来地域産業を支える人材育成に努めてもらいたい。

・生徒は定通教育の柔軟性に魅力を感じて入学している。そういう生徒の夢実現に向けて、学校あげて支援してあげてください。